

松平春嶽 まつら ちはら 搢人。文政十一年九月、一日江戸生れ、明治二十二年六月、一日歿（一八二八―九〇）。講慶水、かじゆみづ 字八寧、幼名錦之丞。號春岳、春嶽（のち通稱）、榮井、永、礫川、礫川散人、羊堂、謙益齋、養賢堂、鷗渚、源よし水、源慶水、源朝臣慶水等。田安齊ゆきまさ（匡）の八男、天保九年福井藩主松平齊善の養嗣子となり、襲封。文久二年幕閣の政事總裁職に就任。維新後議定、内閣事務總督、民部卿・大藏卿兼職、大學別當兼侍讀等歴任。明治二年退隱、爾後又専ら専心。

著書『近世詩文・第一集』（合著・橋崎隆行編、明治十年十一月大阪・鹿田しかた（七）刊）、『松平春嶽公未八公刊書簡集』（一・昭和五十八年二月、二・六十年二月福井・福井市立郷土歴史博物館編刊「福井市立郷土歴史博物館史料叢書」）等。

文獻『松平春嶽公復歴略』（明治二十二年十月、千倉松平家藏、佐々木千尋編刊）、『春嶽公餘影』（昭和二十五年十一月、千倉松平家藏、佐々木千尋編刊）等。



千倉松平景岳